

3. AED・救命処置の流れ

(次ページ、東京消防庁作成「救命処置の流れ（心肺蘇生法とAEDの使用）」参照)

3-1. AEDについて

心臓突然死は、しばしば心室細動という重症の不整脈によって引き起こされます。

AEDは、電気ショックを与えることで心室細動を取り除き、心臓の機能を正常に近い状態に戻すことができる装置です。AEDの使用が1分遅れるごとに7%から10%の割合で生存率が低下すると言われています。甲南大学では、キャンパス内にAEDを設置するとともに、クラブに所属する学生を対象として年3回のAED講習会を開催しています。



※すべてのAED設置場所にこのマークを掲示しています。

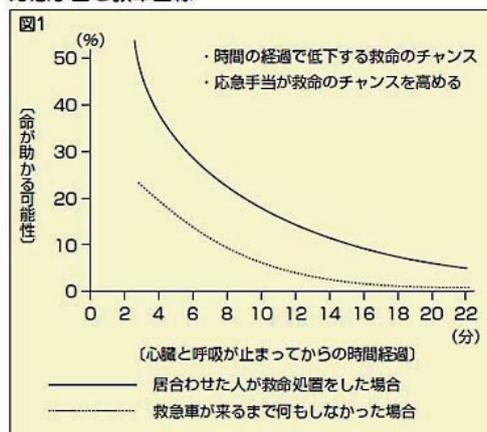
【設置場所】

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| ① 防災センター | ⑪ 三木記念体育館エントランス |
| ② 3号館1階事務室前 | ⑫ 六甲アイランド体育館北側1階(守衛室前) |
| ③ iCommons2階 保健室(貸出し用) | ⑬ 六甲アイランドShip3内 |
| ④ iCommons2階 Fitness Room 前 | ⑭ 西宮キャンパス管理事務室前 |
| ⑤ iCommons3階 iSpot 横 | ⑮ ポートアイランドキャンパス医務室前 |
| ⑥ 7号館管理人室前 | ⑯ 白川台キャンパス警備室前 |
| ⑦ 13号館学生ラウンジ前 | ⑰ 新西宮ヨットハーバー艇庫 |
| ⑧ 図書館1階カウンター | ⑱ 平生記念セミナーハウス |
| ⑨ サイバーライブラリ内(5号館3階) | ⑲ ポートアイランドキャンパス 313 実験室 |
| ⑩ 講堂兼体育館1階ロビー | |

3-2. 救命処置について（東京消防庁「応急手当の基礎知識」より抜粋）

心臓や呼吸が止まった人の治療はまさに1分1秒を争います。図1を見てわかるように、心臓や呼吸が止まった人の命が助かる可能性は、その後約10分間に急激に少なくなっていく。このようなとき、まず必要なことは「すぐに119番通報する」ことです。119番通報が早ければ早いほど、病院に早く到着できます。また、病院に到着するまでの間も、救急隊員による救急処置をより早く受けることができます。しかし、それだけでは十分ではありません。救急車が到着するまでには全国平均で6分以上かかります。救急車が来るまで手をこまねいては、助かる命も助けられないこととなります。そこで、そばに居合わせた人による救命処置が必要になるのです。

図1 応急手当と救命曲線



Holmberg M et al. Effect of bystander cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients in Sweden. Resuscitation 47:59-70, 2000. より、一部改変して引用